

氏 名	平 田 泰 三
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4415 号
学位授与の日付	平成23年9月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Efficacy of pleurodesis for malignant pleural effusions in breast cancer patients (乳癌患者における悪性胸水に対する胸膜癒着術の有効性)
論文審査委員	教授 三好 新一郎 教授 平松 祐司 准教授 貞森 裕

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

悪性胸水を伴った乳癌患者において、全身治療（抗癌剤治療もしくはホルモン治療）のみを行う場合（systemic therapy: ST 群）と胸膜癒着術に引き続き全身治療を行う場合（pleurodesis followed by systemic therapy: P-ST 群）のどちらが胸水コントロールにおいて優れているか検討した。国立がん研究センター中央病院のデータベースにおいて 1997 年から 2008 年の間に悪性胸水と診断され、かつ全身治療を行った乳癌患者を抽出し、ST 群と P-ST 群の長期予後の比較検討を行った。胸膜無増悪生存期間（pleural progression-free survival: PPFS）は胸水に対する治療介入開始日から胸膜増悪日もしくは死亡日までと定義した。対象となった患者は 180 例で、78 例が ST 群、102 例が P-ST 群であった。ST 群の PPFS は 4.1 ヶ月に対し P-ST 群では 8.5 ヶ月で、P-ST 群の PPFS が ST 群よりも有意に長いことが示された。多変量 Cox 回帰分析を用いて予後因子の調整後でも、P-ST 群の PPFS は ST 群よりも有意に長いことが示された。以上より、悪性胸水を伴った乳癌患者に対して、全身治療単独よりも胸膜癒着術に引き続き全身治療を行うことで、悪性胸水をより長くコントロールできる可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、悪性胸水を伴った乳癌患者において、全身療法（抗癌剤治療またはホルモン治療）のみを行う場合（systemic therapy: ST 群）と胸膜癒着術に引き続き全身療法を行う場合(pleurodesis followed by systemic therapy: P-ST 群)のどちらが胸水コントロールにおいて優れているかを明らかにする目的で、2 群間の長期予後の比較が行われている。その結果、P-ST 群の胸膜無増悪生存期間（pleural progression-free survival: PPFS）は 8.5 ヶ月、ST 群は 4.1 ヶ月であり、P-ST 群の PPFS は ST 群に比し有意に長いことが示された。多変量 Cox 回帰分析を用いて予後因子の調整を行った後でも同様の結果が得られた。これらの知見は悪性胸水を伴った乳癌患者に対して、全身治療単独よりも胸膜癒着術に引き続き全身治療を行うことで、悪性胸水をより長くコントロールできる可能性を示唆したものであり、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。